



つくば市総合運動公園:住民投票、反対が多数 計画大幅見直しも /茨城

毎日新聞 2015年08月03日 地方版

つくば市の総合運動公園建設基本計画の是非を問う住民投票が2日投開票され、反対票が賛成票を上回った。305億円かけて建設を予定する計画に、市民が「ノー」を突き付けた格好だ。結果に法的拘束力はないが、市原健一市長は既に、市民アンケートを実施した上で、計画を見直す意向を表明している。今回の結果を受け、大幅に見直される可能性が高い。当日有権者数は16万7589人（男8万4759人、女8万2830人）、投票率は47・30%だった。【庭木茂視、去石信一】

◇巨額事業費にNO

「305億円は巨額すぎる」と疑問を抱いた市民が、「総合運動公園建設の是非を住民投票で問うつくば市民の会」を結成したのは1月末。その後署名運動を開始し、5月の住民投票条例制定につなげた。今回、その主張を多くの市民が受け入れた格好だ。

事業費が巨額のため、子や孫へ大きな負担を残すことを懸念。面積が広大なつくば市で「だれでも、いつでも、どこでも」スポーツに親しむには、1カ所に集中する大規模施設ではなく、分散している既存施設を改修して活用する方が有効だとも訴えた。山本千秋共同代表は「計画をいったん白紙に戻し、市民の要望を聞いた上で、内容を抜本的に検討し直す必要がある」と主張してきた。

一方、市にとって、運動公園建設は悲願。スポーツ施設が分散し、公式記録を取れる陸上競技場がないため、20年以上前から要望が寄せられていた。経済効果や地域活性化も期待でき、大規模災害時には広域防災拠点になると主張してきたが、反対を上回ることはできなかった。

総事業費305億円のうち、大半は国の交付金や地方債で賄い、一般財源からの支出は5%程度と試算。過大な負担ではないと強調してきた。もっとも市原市長は既に計画の見直しを明言。市民アンケートを実施し、規模縮減や施設内容変更などを検討する。市原市長は「スポーツを通して、子供たちは協調性や思いやり、忍耐力などを養える」と意義を強調してきた。

◇市民の会「心から感謝」

市民の会は2日夜、開票を受けて「つくば市の歴史で初めての、直接民主制を体現する住民投票に関心を寄せられたすべての市民のみなさんに、心から感謝の意を表します。また、開票の結果については、反対票を投じて下さった市民のみなさんとともに、心から喜びたいと思います」との声明を発表した。さらに「（1）基本計画は否定された（2）税金がどのように使われるかについて、市民自身が決定に直接参画した」などと意義を強調した。

=====

■解説

◇議論不足のツケ

「民意」は、基本計画に反対だった。「建設自体に反対」「規模を見直してほしい」「場所を見直してほしい」――。どの意味での反対票なのか判明しないが、陸上競技場の観客席を大幅削減するような、大胆な見直しは必至といえる。

住民投票は賛成か反対かの2択だから、一見分かりやすいようにも見える。だが「スポーツ施設建設には賛成だが、規模などを見直すべきだ」と考える市民は、どちらに投票すればよいのか、迷いが生じた。賛成、反対の両陣営とも「見直し派」の取り込み躍起となった。市長派、反市長派の争いという「政争」の側面があったことも否定できない。

最大の問題点は、十分な議論がないまま計画が進められたことだろう。市原健一市長が明言していた「市民アンケート」の実施が待たれる。推進、反対両陣営が一から意見を出し合えば、よりよい形で進められるはずだ。多くの市民が納得できる計画が求められている。【庭木茂視】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.